

ケアセンターけやき 通所リハビリ

症例概要 利用者:70代 男性 要介護1

利用期間:令和1年8月～現在

既往歴:アテローム血栓症脳梗塞(両側あり)2型糖尿病、高血圧症

経過:令和1年8月から通所され、利用当初はあまり話されず積極性も見られませんでした。個別リハビリでは段々と担当セラピストと打ち解けられ笑う姿も見られるようになりました。しかし集団体操の場面では、気恥ずかしさ等もあるのか中々興味を持たれず積極性も見られませんでした。その為、担当セラピスト・介護士を立て、様々なアプローチを続けたことにより、積極的に参加されいきいきとした良い笑顔を引き出せた事例を今回推薦させていただきます。

内 容

利用者さんは4-5時間のサービスで、週3回通所リハビリを利用されています。

利用者さんは以前都の職員として鉄道関連の仕事に携われ、仕事柄厳しい表情や態度をとることも多かったとお話されている通り、利用当初は表情が固くりハビリやレクに対して、あまり積極的に行う方ではありませんでした。

そこで積極的に参加して楽しんでいただけるように、担当職員とのコミュニケーションの時間を多くとる取組を開始。送迎の添乗員を可能な限り担当介護士を配置してリラックスできる環境に心掛け、また、体操のレクを積極的にして下さる他の利用者さんに、席の近くに座っていただいて一緒に動きやすい雰囲気を作ってください取組を行いました。

レクでは担当介護士がご本人のそばまで寄って体操をしたり、季節ごとにコスチューム(時には鉄道の帽子をかぶり)を変えて笑っていただいたりと、毎回より楽しんでリハビリをして頂けようと取組みました。

すると利用開始半年後から、少しずつ利用者さんのご様子も変わられ、一緒に大きく動いていただけるようになり、半年後には担当介護士の方を向いて積極的に全ての体操をこなされ、担当介護士の冗談にもよく笑いながらとても楽しめるご様子がみられるようになりました。

この結果、当初の週2回利用から、週3回へと増回していただき、楽しんでリハビリをして頂ける環境になる事で、更なる外出の活動性も向上する事ができました。

利用者さんより「これは良い取り組みだなあ」とのお声も聞かれ、初めと随分印象が変わるほど、ご本人のやる気と笑顔を引き出した事例として、今回キラキラ介護賞として推薦させていただきます。